

6 . 外部評価委員会 - 1 における評価について (審議記録)

平成 2 2 年 3 月 3 0 日 (火)

1 6 : 0 0 ~ 1 6 : 4 0

出席者 : 外部評価委員会委員 (6 名)

【委員長】

奈良教育大学の第 1 期中期計画に外部評価の実施が挙げられています。この中期計画の趣旨に従って、この外部評価委員会を開始いたします。委員の皆様のご協力を仰ぎながら、委員会を進めていきますので、よろしくお願いいたします。

学長裁量経費によるプロジェクト研究の発表や評価は、各大学でそれぞれに独自の取り組みがあるとお聞きしましたが、学長裁量経費によるプロジェクト研究の成果の外部評価を実施するというのは、奈良教育大学の独自の取り組みとして高く評価できるのではないかと考えますので、その趣旨にそってこの委員会を進めたいと思います。

委員会の進め方ですが、まずそれぞれのご専門の研究テーマのところでご意見をいただいたうえで、各テーマについて共通して意見交換をするということによろしいでしょうか。

委員の皆様は、すでに先ほどの発表会での質疑応答でも発言されていますが、その発言と重なっても結構ですので、それぞれのご担当の研究テーマについて、5 分間程度でご意見をいただきます。このご意見が議論の中心になっていきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、研究発表 1 から順番に始めます。

研究発表 1 への評価

【A 委員】

失礼いたします。まず、最も大きな成果の一つですばらしいと思ったのは、『バルシューレに基づくスポーツプログラム』が教材作成にまで至っている事です。そこまで成し遂げられたことは、とてもすばらしい成果だと思えます。単なる翻訳版ではなく、ドイツと日本の実情の違いを具体的に踏まえた上で、単に子供の体力を高めるためというだけでは

なく、運動能力を育むという視点を導入し、どのようなプログラムを編成すればいいのかを考えて、奈良教育大学版を作成しておられます。これはかなり労力と時間のかかる取り組みであったと思います。先駆けとなる科研費での研究があったとはいえ、ここまで取りまとめられたのは、優れた成果と言えます。

ただ、ドイツの場合は、学校教育としての体育が地域スポーツと密接な関係にあるという側面があるため、本プロジェクトも生涯スポーツとのかかわり、地域とのかかわりという方向へ発展していくことは自然な流れであろうと考えます。

今日、詳しくお話を聞かせていただいて、これは、教員養成に関わる体育科、保健体育科の教科教育の授業の内容編成の在り方に有用な示唆を与えてくれるものとも考えます。とりわけ、球技については、種目ごとに内容を例示するのではなくて、それぞれの種目の基礎になる動きを小学生の低学年から系統的に学習させるという方向に変わりましたが、その流れからすると、このバルシューレを基にしたプログラムは、低・中学年の内容として重要な意味を持ってくるものとなります。

教科教育あるいは、教科の専門科目の中で、体育固有のカリキュラム内容としてさらに発展、充実が期待できるだけでなく、附属学校園や地域社会と連携して、さらなる成果を上げていくことに多大の可能性を有した取り組みであると考えます。

【委員長】

ありがとうございます。それでは、次に研究発表2に移ります。お願いします。

研究発表2への評価

【B委員】

研究発表2では、3つのテーマがありました。先ほどの質疑応答でお話ししましたが、繰り返してお話ししたいと思います。

最初の『カリキュラム・ヴィタエ』については、私は、いまひとつカリキュラム・ヴィタエがよくわかりません。具体的なところで、ポートフォリオと何が違うのか、勉強不足というか、専門外なものですからよくわかりません。

「教育実践演習」は、次年度からですか、導入されることで、うちの大学では、ポートフォリオを取り挙げるという話になっています。それを具体化していく上でも参考となり、この取り組みは非常に先導的かつ実証的ですね。非常にすぐれた研究というふうに私

は思いました。

これから多分いろんな大学でこのようなポートフォリオのようなものを扱っていくと思いますが、この成果をぜひ発信していただいて、いろんな大学で活用できるようにしていただければ、興味深いと思いました。

2つ目の『身近なフィールドから学ぶ教育プログラム』というテーマは、非常に大学の特色を生かしておられます。この奈良教育大学の中の自然の様子や周りの自然環境を非常に生かして、なおかつ環境と自然を有機的に連携した学際的な研究というように思いました。

デジタル図鑑は、アクセス数3,000回ということですから、かなり利用されていると思います。実際に見ても、かなり細かく詳しくできています。それから、何と言っても、大学の中のどこにどういう生き物がいるかが、それを見てわかるのは非常に良いと思えました。

ただ、デジタル図鑑は、家の中でパソコン見ることになってしまいます。行った現場で、これは何だか知りたいと言った時には、ポケットに入るような図鑑のほうがいいのではないかと、どっちがいいんだろうかなと。さっきも質疑応答で言いましたけど、今、携帯電話をみんな持ってますし、非常に有効に使えます。それをもっと有効に使うと、新しいデジタル図鑑ができるのではとの期待を持って聞いていて思いました。だから、例えば携帯電話で写真を撮って、これを見て、これがどういう植物なのかがわかるようなシステムができると、非常に面白いと思いました。

これは大学キャンパス内だけですけれども、大学以外にも近隣の小学校・中学校の校内を協力して調べて、小・中学校の校内にどういうものがあるかまで広げていくと、非常に進展があるし、利用するみんなが喜んでくれるのではと思いました。

それから、3つ目の『物質科学教育』の例です。私も理科が専門ですから、日頃から持っている課題意識として、自分のやっている研究と大学の教育をどのように結びつけるのかということがあります。自分の研究成果をいかに大学の教育の中に反映させていくか・還元させていくかを常にやっぱり考えていく必要があると思いました。そういった点では、ただ単に基礎研究をやるだけではなくて、その基礎研究の成果をいかに教育の中に反映させていくのかという取り組みだと思いました。その点では非常に評価できると思えました。

内容としては、教員養成大学の教科の理科というよりも、むしろもっと一般的な教養

教育の何か科学的な物の見方とか、そういったところにも少し研究の重点があるのではと思いました。ここには新課程がありましたね。ですから、教員養成大学ではありますが、学校教育だけではなくて、もうちょっと広い科学教育の視点で研究していくことも、一つの使命かと思いました。そういう点では、重要な研究と思います。

【委員長】

ありがとうございます。それでは、研究発表3に入らせていただきます。

研究発表3への評価

【C委員】

研究発表3は、3-1と3-2の二つのプロジェクトがあります。この二つのプロジェクトの共通ワードは、「ESD」で持続可能な開発のための教育ということです。先ほどの質疑応答で、この二つのプロジェクトの関連についてお尋ねしたところ、研究と実践の交流はされているが、それぞれが独自に取り組まれていることがわかりました。

ユネスコがESDを提唱して以来、ESDの必要性があちこちで言われ、学習指導要領にも挙がってきていますが、ESDの中身がなかなかわかりにくい状況があります。このような先端的な課題を研究と実践において、それぞれの関心にしながら取り組まれているのが素晴らしいと思います。

研究発表3-1「世界遺産教育の理論的・実証的研究」では、ESDの理念を明らかにしようとする一方で、地元の奈良を軸にしてネットワークを作られ、諸外国にも発信するという精力的な取り組みが行われています。そして外に向けてだけではなく、副読本『奈良だ いすき世界遺産学習』を教育委員会と協力して編集され、奈良の地の利と歴史性を生かした教材開発をされていることが、評価できると思います。

研究発表3-2は、附属中学校の「ESDの理念にもとづく学校づくり」です。今日の報告を聞いて、実に多面的な活動をされていることに感服しました。附属学校でこれだけのさまざまな行事等を行おうとすれば、大変なことだろうなと思いました。それと、ESDの理念を各教科に取り込んで、教科学習においてもこの理念を生かそうとされていて、共感的理解から構造的理解にいたる道筋を探求されようとする点が評価されます。

先端的な研究と実践が大学と附属で行われていますので、今後、それぞれの独自性を生かしながら協力関係をより強められれば、大学と附属学校の協同研究の素晴らしいお手本

になるのではないかと、期待をもちました。研究発表3については以上です。

【委員長】

次に研究発表4について、担当委員をお願いします。

研究発表4への評価

【D委員】

それでは、研究発表4についてお話をさせていただきます。

特別支援教育研究センターが設置されて3年間で、多彩な教師向けの研修会あるいは保護者向けの企画等をやっていたことは、高く評価したいと思います。また、センターのホームページも内容が充実しています。

先ほどの発表会の質疑応答でも述べましたように、特別支援教育支援員の研修については、全国の特別支援教育関連センターではほとんど実施されていませんし、また、市町村教育委員会でも充分できておりません。更に特別支援教育支援員自体が学校の教員経験が無い方がかなり多いことで、そういう知識が不十分な方々に対してのサポート体制を取っておられることは大変好ましいことと思っています。

それから、ペアレント・トレーニングとかティーチャー・トレーニングもあまり他ではやっていません。ソーシャル・スキル・トレーニングは京都教育大学の特別支援教育臨床実践センターも含めて他大学でもやっていますが、このような取り組みを評価したいと思っています。

今後の課題ですが、高校生への支援がまだ今回の報告では無かったようですが、実は発達障害のある高校生も結構在籍しております。そういう生徒たちがいじめを受けて不登校になったりします。高等学校は義務教育でなく、試験を受けて合格して来たからそんな子はいないという思い込みを進学校の先生の方はお持ちです。しかし、実はアスペルガーなどの発達障害のお子さんも進学校のトップクラスでも学んでいるので、支援が必要となってくると思います。

それから、先ほども申し上げましたように、奈良県の中で奈良教育大学のある奈良市は一番北部にありまして、南部のほうの小規模へき地校では、なかなか特別支援学校も近くにないし、支援の体制が困難です。田原本に県の教育研究所があって、そこで研修をおおむねやっておられますけれども、南部からそこへ行くのも長時間かかります。このため、

例えばテレビ会議システムを使って遠隔授業を行うような工夫も、大学としての地域貢献ということで可能ではないかと思っております。そういう意味で、今後の活躍に大いに期待をしたいと思えます。

あと、特別支援教育専攻科と大学院の現職教員の方が、また大学院で学びつつ、あるいは専攻科で学びつつ、現場へ戻っていきながらそういう橋渡しの役を今後担っていかれると思えます。そういう点のネットワークづくりも期待したいと思えます。以上です。

【委員長】

ありがとうございました。それでは、続きまして、研究発表5について担当委員からよろしくをお願いします。

研究発表5への評価

【E委員】

研究発表5の研究プロジェクトについてです。この研究では、まだ第1期生が修士1回生ですが、M1の時に既にこれだけのものをつくり上げて出すことはなかなかできないことです。この点については、本当に高く評価するべきと思っております。

今日もらった研究紀要を見ると、セカンドオーサーは教職大学院以外の現場の先生も書いてますので、これから外にどんなふうこれを開いていくのが、一つ大きな課題になってくるかと考えています。

2点目は、教職大学院ですので、やっぱり実習がかなり重視されます。理論研究をして、実習に行って、リフレクションして論文としてきちっとまとめていくというタイプの研究成果がこれから増えてくるのが、教職大学院の味を出していくことにつながるかと考えています。

2点目の図書館の院生の研究環境支援に関してコメントいたします。「本を揃えました」だけではなくて、例えば、この研究紀要が収録されたり、連携校の研究成果のようなものがここに備わっていたりすることが大切で、まずは県内の研究成果物を収集していくことが良いと思えます。特に、ストレートの院生が勉強する時の教材になるような、既存の図書館には無い機能をこの教職大学院の図書室に加えていただければ、より充実するのではないかと考えています。

講演の内容についても、実習にかかわる部分なので、非常にいい講師をお招きになって、

いい研究をされていると考えています。以上でございます。

【委員長】

ありがとうございます。では、最後に研究発表6について、担当委員をお願いします。

研究発表6への評価

【F委員】

私は6番目の研究発表について述べます。この研究は、今、教育学部あるいは教員養成大学が直面している大きな課題に真正面から取り組もうとしていると思います。免許法が改定をされて、入り口と出口の新しい科目が設定されました。これは、単に2つの科目が設定されたことだけではなくて、その2つの間をどうするのかということが問われていくかと思っています。

その間の問題、つまり教職科目がありますが、そのつながり、背景性、これをどう考えるか。実習とのつながりをどう考えるか。それから、教科教育と教科専門、このつながりとさらに全体の中での位置づけをどのように考えるかという大きな課題です。そういう課題、特に前の2つに焦点を当てて取り組もうとされていて、きわめて意義深い研究だと思っています。

その中で、さまざまな創意ある研究をされていますが、まずは入り口の問題ですね。これについては、「現代教師論」という科目を設定して対応されています。その時に、先ほど質問もしましたが、「卓越した教師力」という設定が少しわかりにくいところがあると思います。

「cuffet」というカリキュラム全体のフレームワークが設定されています。その英語を見ますと、「curriculum framework for expert teachers」となっています。エキスパートの部分を「卓越した」と設定されています。これは、要するに、自立した専門家としての教師ということではないかと私は思っています。そうすると、日本語で「卓越した」と使っていると、その専門家といえますか、学校の中で自立して教育課題に取り組んでいける教師という意味合いが非常に変わってくるのかと思いましたので、「卓越」という言葉は適切だろうか？と質問いたしました。

それから、それぞれの先生方からリストを書いてもらって文献を100冊選定し学生に読んでもらう、との説明がありました。その100冊を選んでいく時の基準が、定めにくく

なってしまうのではないかと思いました。

ここで5つ課題が設定されてますが、特に2年生に教育実習プログラムが設定されていないことで、他の大学は2年生にどこの大学も大体設定をしているので、奈良教育大学でも意義のある実習を2年生に設定しようということです。そこで、どういう実習にするのかで、いろいろ工夫をされています。

それと、5番目に教師力サポートオフィスの設置の説明がありました。ここで言う「卓越した教師」に向けて学生が学習を進めていく時に、いろんな課題にぶつかっていく、自分で思うように学習が進まないこともあるかと思えます。その時に、きちんと一人一人の学生に支援をしていくためのシステムを作ろうとされている。これは、とても重要な課題ではないかと私は思います。

入り口から出口まできちんと学生たちに学習を進めさせていくためには、その途中で学生たちをサポートしていく体制を作る必要があると思えます。日本の教員養成では、カリキュラムの中での養成ということが基本的な考え方です。授業を受けて、あるいは実習に行って単位をとれば勉強が終わるということでした。それだけでいいのかという問題があります。そうすると、極めて実践的な、例えばコミュニケーション能力の育成だとか、ソーシャルスキルの育成だとかの非常に具体的な指導がカリキュラムの中ではなかなかできにくくなります。しかし、そういうものが極めて重要になっている状況があるわけです。そうすると、カリキュラムでは極めて基本的なことをきちんと学ばせて、それ以外の部分に関しては学生たちが主体性を持って、意欲のある学生がそういう課題を自分で追求していく、学んでいく。そういう学習の場を設定していくことも必要になってきます。何でもかんでもカリキュラムの中でやるのではない。そういう課題があるかと思えます。その中で、この教師力サポートオフィスは、学生の主体性、積極的な姿勢みたいなところに狙いを置いて活動しようとしていますので、これは非常に意義深いものだと思います。

一方では、それをだれがやっていくのか、だれが指導していくのかという、とても難しい問題も出てくるかと思えます。その辺をもっと、この研究の中で検討していただいたら、一つのモデルをこれからの教員養成に示していくこととなるのではないかと思いました。

そういう意味で、非常に前向きな、新しい課題に取り組もうとされていると言えらると思えます。

【委員長】

ありがとうございました。ここまで、研究発表 1 から 6 までコメントをいただきました。まだ少し時間ありますので、追加や補足の発言はございませんか。

自分の担当ではなかったが、発表を聞いてぜひコメントしておきたいという、担当以外の発表にかかわってのご意見やコメントはありませんか。D 委員、どうぞ。

【D 委員】

研究発表の 2 に関してですが、今、理数教育のシステムの充実が問われています。京都府内で小学校教員養成課程を持っている私立大学は短大を入れて確か 8 大学だったと……。要するにサバイバルといいますか、大阪以上に……。国立大学でやっぱり勝負できるのは、理数系に強い小学校教員養成。特に今、小学校においては実験・観察が重視されている。今回のご報告は、多分、中学校・高等学校の教員になる理系の先生の養成の充実ということでの発表でした。この成果は、さらに小学校教員養成にあたりましても発展させて行っていただきたいと思います。私学に比べて国立大学が勝負できるところはそこにあるわけです。

それから、国立大学は学生に対しての教員数もはるかに多いんですね。私学の場合、理科の担当の先生はお一人しかいなくても、課程認定が来ています。それに比べたら国立大学は十数名近くの教員がいますので、この人員を活用しての実験・観察を生かした小学校教員養成のプロジェクトで、さらに発展していただければという願いがあります。

【委員長】

せっかくの機会で、こういう時に大学交流できればいいなと思うぐらい、この学長裁量経費プロジェクトの研究テーマはいろいろな話題を呼ぶテーマだったと思います。しかし、そろそろ時間が来ていますので、外部評価委員会 1 を終わりますが、よろしいですか。

それでは、外部評価委員会 2 の方へ移ります。

以 上

